


アサガオの種まき ツツジの整枝 キクの苗づくり		
2005年5月	皐月(さつき)・菖蒲月(あやめづき)・午月(ごげつ)・早苗月(さなえつき)・橘月(たちばなつき)・多草月(たぐさつき)・五月雨月(さみだれつき)	●春の花盛りの時期
●新芽がいつせいにのびて、瑞々しい空間を楽しめます。草花の成長盛りのこの時期は、生命の神秘を感じるたくさんの発見があるはずです。草花たちの成長を毎日見守ってあげましょう。		
庭木の作業	・ツツジは花が終わった時期に整枝します。	
草花の作業	・春まきの草花の移植、定植。 ・アサガオの種まき。	

今月の誕生花	アヤメ・カーネーション・スズラン・ボタン	
今月の花	ハナミズキ	
	花言葉/私の想いを受けてください・返礼	
	<p>「一青 窈(ひととよう)」が、2001年のアメリカの9.11同時テロを受けて「人と人はやさしさを交換できないものか」という思いを込めて作った曲のタイトルが「ハナミズキ」でしたね。とても すてきな いい歌です・・・。</p> <p>庭のハナミズキ 薄紅色の可愛い君のね 果てない夢がちゃんと終わりますように 君と好きな人が百年続きますように</p>	
	<p>原産地は北米東部です。ミズキ科コルヌス属の落葉小高木。丈は4～10m。開花時期は5月ごろ。別名はアメリカヤマボウシ。アメリカでは有名な花で、バージニア州の州花。</p> <p>日本への渡来は、明治になってからです。明治42年に東京市長だった尾崎行雄が、平和の使者としてアメリカにサクラを贈ったところ、その返礼として この花が贈られたのです。花言葉の「返礼」は これが由来です。</p> <p>当時の原木が、今でも国内の公園に残っているそうです。</p> <p>別名の「アメリカヤマボウシ」は、日本のヤマボウシに花が似ていることから つけられました。</p> <p>しかし、日本のヤマボウシは、花より葉が先にですが、ハナミズキは逆で、花が先です。</p>	

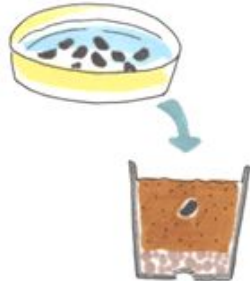
アサガオの種まき

育てる以上は、美しい大輪の花を咲かせたいですね。園芸店から購入するときは、少し値段が高くてもよい系統のものを選びましょう。種子をまいて、双葉が開いたとき、丸みのあるものは大輪系ですが、細くとがったものは小さな花しか咲かないのが定説です。大輪系のものを残して育てるようにしましょう。



●種子まきの方法

「晩水につけておく!!」



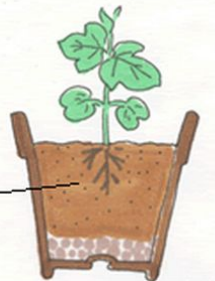
- (1) 種子は前日の夜に水につけて、よく吸水させておきます。
- (2) 深さ6cm程度の箱か、ビニールポットを用意して 底にはゴロを入れ、バーミキュライト、またはパーライト、川砂などをつめ、箸の先で1cmの穴を、3cm間隔くらいにあげ、ここへふやけている種子を1粒まきます。あとで水やりをしておきます。

●芽がでたら

暖かいところに置くと、3日ほどで芽を出します。

このまま日当たりのよい所におき、本葉が2~3枚になったら、6号くらいの鉢に植えます。

苗はヘラのようなもので、ていねいに掘りおこし、長い根の先を少し切って植えます。



用土の割合

腐葉土4・田土3・川砂3

有機質をふくんだ水けのよいものならば、問題ありません。

ツツジの整枝

クリシマツツジにリュウキュウツツジ、最後に咲くのがサツキツツジ…。ツツジの仲間は、どこの家にも1株はあるほどで、育てやすい庭の木として親しまれています。ただ、年々大きく育つと狭い庭では困りますし、下手に切り詰めると花がつかなくなってしまいます。

整枝の時期に気をつけましょう!!

春に咲く花木は、花が散ったらすぐに手入れをしましょう。

春先の樹木は、初夏に伸びた若芽が充実した梅雨明けから、盛夏のころに翌春に咲く花のもとになる花芽をつくります。若芽が伸びきった夏に切れば、花芽ができませんし、秋や冬に切るとせっかくの花枝を切ることになってしまいます。したがって、花が終わり、これから若芽を伸ばそうとする前に古枝を切ることにすれば、背丈も低くできますし、翌年の花も十分楽しめるわけです。

大株の整枝



化成肥料を2～3握りほど周囲にまきましょう。

普通の株の整枝



若い木は、毎年新しい元気な幹が根元からですが、古くなった幹は、年々弱って花枝をつけなくなります。

大株の場合、花が終わったあと思い切って低い位置で切りそろえましょう。

残した枝によく日が当たり、風通しもよくなって株が更新せられて元気に育ちます。

花が散った後で、(1)枯れ枝 (2)古枝 (3)弱った枝の順で、根元から切り取りましょう。この手入れで密生した株にすき間ができて、残した若枝によく日光が当たり、風通しもよくなって元気に育ってきます。

キクの苗づくり

立派なキクを育てるには、前年の暮れからの土作りと苗作りの良し悪しが大きくものをいいます。とりわけ、**健全な力のある しっかりとした苗をつくること…それがキクつくりの秘訣**です。

毎年、さし芽で丈夫な苗をつくりましょう。



3月末

よく育った元気のよい親株の先端を切り取って使うので、3月末ごろには、化成肥料を与えておき、少し伸びたら、芯を摘んで枝をわけ、何本もの芽がとれるようにしておきます。



5月中旬～6月上旬

さし芽をします。

さし芽の時期は、5月中旬～6月上旬ごろがよく、枝わかれた芽を、長さ6cmくらいに切ります。



水平に切り
下葉1枚除く



水揚げ1~2時間



4号鉢又は、
ポットに植える

切り取った芽を、カッターナイフなどで、水平に切り直します。
また、下葉を1枚程度取り除きます。

水を入れたコップなどに立てて、1~2時間程度水揚げをしておきます。

深さ6cm程度のビニールポットか、4号鉢を用意して、少しゴロを入れたらさし木用土を入れます。
用土は、赤玉土(米粒大)、パーライト、バーミキュライトなどの雑菌や肥料分の混じらないもので、水はけのよいものがよいでしょう。
用土に、水をかけて落ち着かせたら、竹バシで3cm程度の穴をあけて、さし芽をさします。

ポットは、静かに水をかけ、風の当たらない半日陰で、雨のあたらない場所に置き根付くのを待ちます。
日中はしおれるので日よけをし、乾きかけたら水を与えますが、あまり水ばかり与えると温度が上がらないので根付きがおくれるので気をつけましょう。
10日くらいすると根が出はじめて芽先が伸びだすので、少しずつ日に当てて元気のよい苗を育てます。